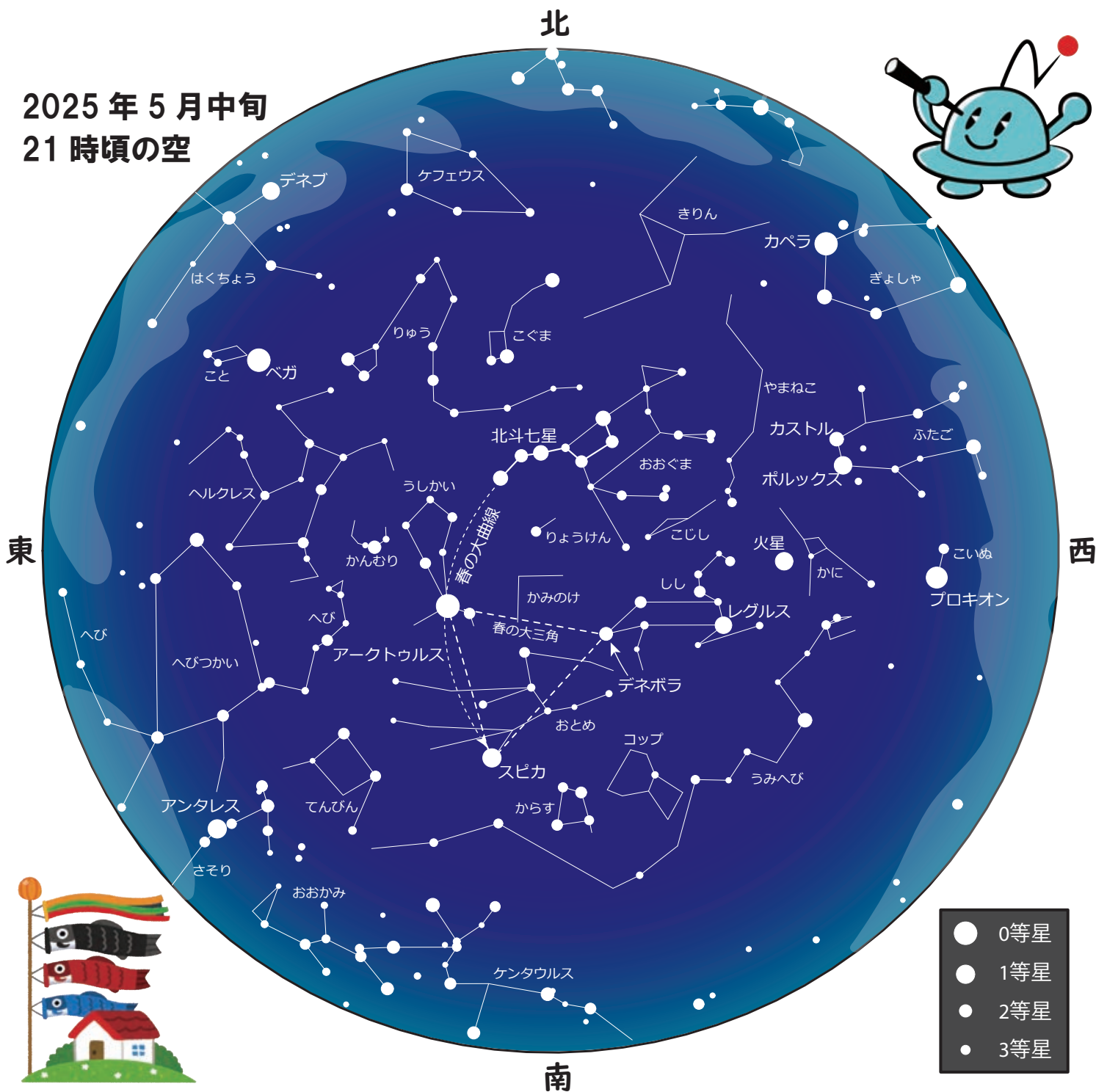


阿南市科学センター

5月の星空案内

2025年5月中旬
21時頃の空



5月になるといよいよ春の星座たちが南の空へ昇ってきています。北の空を見上げると**おおぐま座の北斗七星**を見つけられます。この北斗七星の先の星から南に向けて曲線を描くと春の一等星を探すことができます。まず最初に見つかるオレンジ色の星は**うしかい座のアークトゥルス**（約0.0等）です。さらに南へたどっていくと今度は**おとめ座の青白い星スピカ**（約1.0等）を見つけられます。これらの星はその色から日本ではそれぞれアークトゥルスを**麦星**、スピカを**真珠星**と呼んでいました。さて、今紹介した北斗七星から一等星を見つけることができる曲線を**春の大曲線**といいます。春の大曲線をさらにのばしてみると、**からす座**といういびつな四角形をした星座を見つけることができます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<https://ananscience.jp/science/>

5月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
4日



満月
13日



下弦
20日



新月
27日

5月の天体観望会で月が見える日時は？



5/10 (土) ... 20時、21時の回



5/31 (土) ... 20時、21時の回

水星：上旬頃、明け方東のごく低空で見える。【約0.1等】

金星：夜明け前、東の空で見える（明けの明星）。【約-4.4等】

火星：前半夜、西の空で見える。【約1.1等】

木星：日没後、西の低い空で見えるがすぐに沈む。【約-1.9等】

土星：夜明け前、東寄りの空で見える。【約1.1等】

※ 各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ上旬頃）。



2025年5月15日 午前4時の空
(図はステラナビゲータを参照)

早起きできたら
明けの明星を見てみよう！

天文写真

【四国最大の天体望遠鏡で捉えた M51】

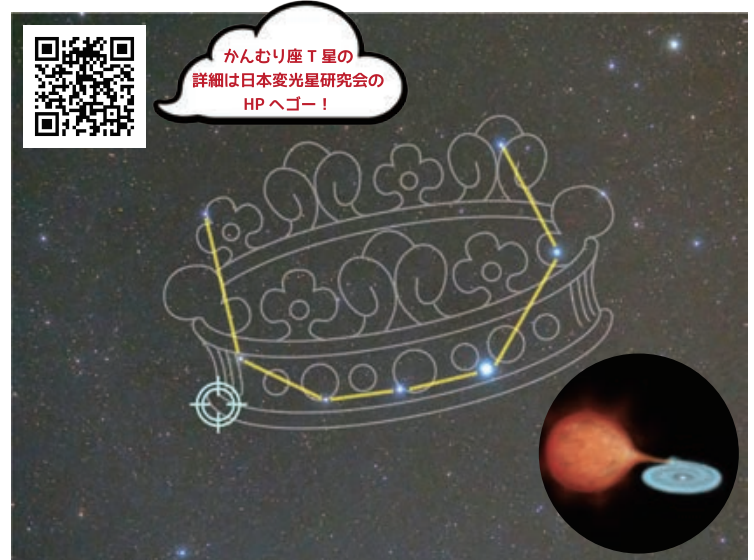
当館が保有する四国最大の天体望遠鏡とフルサイズのカラー CMOS カメラで撮影された M51 の姿です。りょうけん座にある M51 は約 2800 万光年も離れた先にある銀河です。また、子持ち銀河とも呼ばれる有名な銀河で、M51 の一本の腕の先に伴銀河 NGC5195 が手をつないでいるかのようにぶら下がった姿をしているのが特徴的です。M51 は 1773 年にフランスの彗星天文学者シャルル・メシエが発見しました。あるときメシエは彗星を探すときに、彗星と見間違えそうな天体をリストアップしたメシエカタログを作りました。カタログに載っている天体はメシエ天体と呼ばれ、計 110 個あります。M51 もその内のひとつで、M51 の M はメシエの頭文字 M からとられています。当館ではその 110 個あるメシエ天体を全て撮影し、メシエポスターを製作しました。ひとつ 500 円で販売しておりますのでお家に一枚いかがでしょうか？



M51 子持ち銀河
(113cm 望遠鏡 + ZWO ASI6200MC pro
露出 300 秒, 12 コマ撮影, Gain=100, -10°C)

おもしろ天文学

【目覚めが近い！かんむり座の新星】



かんむり座 T 星の
詳細は日本変光星研究会の
HP へごー！

かんむり座 T 星の位置。右下の図は新星の想像図。

春の小さな星座かんむり座には「眠れる秘宝」ともいふべき星が息を潜めています。その名を「**かんむり座 T 星**」と言い、約 80 年の周期で爆発を起こす**新星**（反復新星）という種類の天体として知られています。新星とは白色矮星という天体の表面で突然核爆発が起き、劇的に明るさが増大する現象です（新しい星の誕生ではありません）。かんむり座 T 星は普段約 10 等の暗い星ですが、過去 1866 年と 1946 年に 2 回の新星爆発が確認されています。極大時の明るさは肉眼で見える 2~3 等に達するため、このときはかんむり座の印象が一変することでしょう。天文学者の間では昨年ごろからそろそろ爆発するのではないかと予測されており、この春も目が離せません！